

## 東日本大震災の教訓を生かした地理・防災教育 関西の中高校・大学の教育現場から Geography and disaster prevention teaching in Kanai area learnt from the Great East Japan Earthquake's lesson

野間 晴雄<sup>1\*</sup>

NOMA, Haruo<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 関西大学

<sup>1</sup> Kansai University

### 1. はじめに

巨大地震と大津波、誘発された原子力発電所の事故は、生徒・学生の脳裡にも強烈な刻印を残した。おびただしい情報が氾濫するなか、現役の中・高校生や大学生に対して、膨大な情報と見解の“束”から、被害状況を的確に把握し、正しい防災・エネルギー節約意識をもって復興にむけ社会貢献できる教育は緊急かつ必須である。ただ、東日本に比べて関西在住の生徒・学生の節電意識や地震・余震への備えに関する温度差は大きい。本報告はその温度差を前提として、阪神大震災を経験した兵庫県下の中・高等学校の社会科教諭である小泉邦彦(西宮市立上甲子園中学)、下村勝哉(兵庫県立津名高校)と連携し、震災関連の地理教育の意義と教材を提言する。

### 2. 中学校の事例 2年生地理分野「日本の自然災害」3コマ

西宮市立上甲子園中学校区域は、北をJR甲子園口、南を阪神甲子園駅に限られ、武庫川の派流の枝川を廃川にして、阪神電鉄が河川跡を道路(現甲子園筋)、堤防跡地を住宅地として開発された。校区には永年この地に住む親・祖母から震災時の話を聞かされている生徒と、転入生とが半々で両者の温度差も大きい。

#### [1限目] 阪神淡路大震災の状況について知る

直下型地震の被害と避難生活、復興状況について学ぶ。ビデオ「阪神淡路大震災の記録」を見て、直下型地震の揺れ方と、当時の被害状況を確認し、その後の避難生活と震災復興の状況について学習する。

#### [2限目] 東日本大震災の状況について学ぶ

プレート移動による地震の被害と津波被害について学ぶ。プレートのひずみから来る地震の揺れ方と、その後に生ずる津波について学習する。津波の動きとそれによる被害状況をDVDで確認し、東北太平洋岸の被害状況を認識する。

#### [3限目] 地震と津波災害への対応を学ぶ

地震から自分の身をどのように守り、その後の対応について考えさせる。津波被害についてはどのように対処するかを予想させる。「西宮防災マップ」を利用し、自分が住んでいる地域での行動を考えさせる。

1年時に総合学習における校区内・市内巡検の経験を活かし、過去の災害状況を学び、地域の防災マップを学習することから生徒に気づかせる。ただ生徒は映像でしか津波が捉えることができず、災害への記憶が薄れるにつれての防災意識低下が懸念される。

### 3. 高等学校の事例 2年生理系「地理A」4コマ

兵庫県立津名高等学校は淡路島の北部、淡路市志筑町にあり、校区には野島断層がある旧北淡町を含む。兵庫県南部地震では家屋倒壊があり、年一度行われる地域の防災訓練等を通して被災地としての教訓の語り継ぎは行われている。震災直後に比べて生徒の地震に対する意識は低下してきているが、地域には当時の状況を知る住民が数多く存在し、震災後の再建住宅などもあって、地域学習を通して地震対策について学べる。

#### [1限目] 東日本大震災の状況の理解

この8月に実施した宮城県・岩手県の被災地のフィールドワークと被災した中学への聞き取り調査で得た情報や写真を使い、生徒に被災地と津波被害の状況についてグーグルアースで地形等を説明して現地撮影した写真を使い説明する。

#### [2限目] 阪神・淡路大震災時の状況の理解

保護者や小学校・中学校の防災授業でいろいろ指導されてきたが、まだ十分でない。今回は学校のある志筑地区と被害の甚大であった富島地区の当時の状況と統計資料を使用し淡路市の被害の全体像も学習する。

#### [3限目] 津波災害を知る

教科書のプレートテクトニクスの説明をさらに発展させ、巨大津波の原因となるプレート型地震の周期性について理解を深め、地震・津波に備える心構えをつけさせる。

#### [4限目] 津波災害への対応

淡路市作成の防災情報マップを使用し、志筑地区のどこに避難し、いかなる避難所運営を行い、そこでの生徒の役割は何かを討論する。現在発行の防災情報マップでは南海地震時の津波を約2.5mと低く想定されている点を生徒とともに考える。

### 3. 大学での授業実践 「人文地理学概説」での1コマ(90分)

今回は台風による高潮被害や土地条件図、ハザードマップの説明後、三陸沖は大地震や津波が予想されていたにも

U03-07

会場:301A

時間:5月20日 13:45-14:10

かわらず、なぜ「想定外」の結果になったのか。人文地理学では防災よりも減災の考え方を重視し、いかなる社会貢献が可能なかを考えさせる。

#### 4. まとめ

津波被害で1週間も孤立しながら、生徒や周辺住民の避難所ともなった石巻市立住吉中学の教諭との意見交換から、阪神・淡路大震災時の教訓が避難所運営等に参考になったとことが指摘された。教員ができることは、現場でしっかり災害を語り継ぎ、「防災のことを勉強することが支援になる」という意識をもつことである。生徒に津波の理解を深め、人びとの記憶や伝承・歴史、フィールドワーク交えた地域学習から学ぶ必要性と、子どもへの心的ケアを含む防災/減災教育が肝要である。

キーワード: 東日本大震災, 地理教育, 防災教育, 関西地域

Keywords: Great East Japan Earthquake, geography teaching, disaster prevention teaching, Kansai area